

感染予防対策について（2022，11月更新）

以下、長い文になりますが歯科治療をなるべく安全に続けられるよう大切な事柄ですので最後までお読みいただけますと幸いです。

完全予約制です。患者さん同士がなるべく院内ですれ違わないように第2待合室の活用やアポイントの調整をしています。

これまで待合室、洗口室、診療室は患者さん一人ごとに消毒液で清拭、乾燥、換気してしました。状況を見ながら待合室と洗口室は適時の消毒、清拭に致します。

しかしこれからも新型コロナ感染症の感染状況にかかわらず診療室の消毒操作はこのまま変更しません。このため乾燥前は入室できませんのでご体調の変化がないかご確認の上、アポイントの時間ちょうど位にいらしていただけますと助かります。お願いします。

手指消毒をお願いしております。消毒用アルコールが苦手な方はスタッフにその故、お伝えください。

ビル内ではマスクの着用をお願い致します。特に当医院内はマスク非着用者の入室を禁止させていただきます。

医学的なご理由でマスクを着用できない方はこの限りではございません、事前にご相談ください。

マスクは入室後、治療開始まで着用していただいてもかまいません。途中の説明時なども同様です。

歯科医師、歯科衛生士共に常時マスク、ゴーグル、フェイスガードを着用しています。本当は患者さんのお顔を直接拝見してお話したいと思っておりますがこの状況下、申し訳ございません。

なお、飛沫を多く浴びる歯科医師は適時、帽子や診療着を着替えています。

歯科衛生士も同様です。

グローブは患者さん一人ごとの交換だけではなく、診療室の入退室時も含めて複数回、頻繁に交換しています。

衛生管理設備は当院のホームページに記載しております。以前から出来る限りの事はしており特に設備追加はしておりません。

口腔外バキュームも常時稼働させています。これらの機器にはさらに2か所、フィルターを追加しています。高性能 HEPA フィルターの網目は0.3 μM です。最終的には

0. 01 μ M の網目のフィルターを通しています。

合わせて業務用の大型の外気取り入れ装置と排気装置を稼働しています。

当院はオフィスビル内にありますのでトイレは共同です。ビル側が非接触式の水栓やハンドソープディスペンサーに交換してくださいました。お手洗いに行かれる際は当院のスタッフにお声がけしてください。そのままトイレに流せるようにトイレットペーパーに消毒液を滲みこませたものをお渡しする際、ドアノブやスイッチ類の拭く順序などをご説明します。

変異種も毒性は弱くなってきているようです。世間ではコロナなんて風邪と大して変わらない、医療のひっ迫なんてコロナ対応をしている病院だけだ、等々、色々な意見があります。その通りかもしれません。

しかし実際に罹患して苦しんでいる方、お亡くなりになられた方、悲しまれている方、後遺症で苦しんでいる方がいらっしゃるの事実です。

当院に通われている患者さんには透析をされている方やその他の基礎疾患をお持ちの方も大勢いらっしゃいます。

必要以上に怖がる必要はないと思いますが感染、罹患しても欠勤欠席を出来る方、リモート等で働ける方がいらっしゃる一方で色々な事情で休めない方も大勢いらっしゃいます。

当院にいらっしゃる間はお互い様、ご配慮頂きますようお願いいたします。

治療法や新薬の開発も進んでいるようですがそれらが流通し、ある程度確立するまでの間、そして法整備が整うまでは今しばらくこのままの感染拡大予防対策をとってまいります。

当院ではアルコールや次亜塩素酸水による消毒は補助的なものとしています。理由はコロナ対策だけではなく B 型肝炎ウイルスやその他のアルコールでは効果がない感染症などに対するの防御も忘れてはならないからです。

それらに効果のある次亜塩素酸ナトリウムや高価ですが医療用の薬品をメインに使用しています。

歯科治療時に発生する感染性のエアロゾル（歯を削る時に出る飛沫にウイルスがいた場合）から患者さん、スタッフを守るには究極的には宇宙服のような防護服と感染病患者に対応できる特殊な手術室内に歯科用診療台を設置するしかないと思います。通院道中の市中感染に対する対策も確立はしていません。

つまり「万全の感染予防対策をしているので安心して御来院ください」とは申し訳ありませんが言えません。

この新型コロナ感染症に対して当院で出来る事は来院される患者さんやスタッフ達が感染する確率を可能な限り減らす為に、通院道中の感染予防のアドバイスに始まり、上記の院内での感染予防対策をする事、そのリサーチとアップデートです。治療方法なども工夫しています。

院長 林浩太郎